

令和8年10月19 日
福祉局ユマニチュード推進課

市政記者各位

ユマニチュードの効果を測るエビデンス調査を行いました！

福岡市は、認知症になっても住み慣れた地域で安心して自分らしく暮らせるまちを目指し、認知症コミュニケーション・ケア技法「ユマニチュード®」の普及を推進しており、令和7年度から、高齢者施設においてユマニチュードの効果を検証するエビデンス調査を、九州大学大学院医学研究院衛生・公衆衛生学分野と連携して実施しています。

このエビデンス調査のデータ分析から、ユマニチュードの実践により、被介護者の服薬負担の軽減につながる可能性、また、口腔ケアの質の向上が図られることで誤嚥性肺炎の防止に寄与する可能性を示す結果が得られました。

なお、本調査結果は、昨日、福岡国際会議場で開催された「国境なきユマニチュード国際会議 in 福岡 2026」で発表いたしました。今回得られたエビデンスを広く発信するとともに、ユマニチュードのさらなる普及につなげてまいります。

記

Study1. ユマニチュード研修の施設介護者・被介護者に対する効果検証

○ 目的

高齢者施設に入所している認知症の人との意思疎通は難しいところがあるが、ユマニチュードを活用し、介護者（介護スタッフ）と被介護者（施設入所者）とでコミュニケーションが図られることで、高齢者ケアに与える効果を検証する。

○ 調査概要

- ・福岡市内の高齢者施設の介護者が、ユマニチュードの専門職向け研修を受講。
- ・研修受講完了後、介護者は施設内で4ヶ月間ユマニチュード実践。
- ・研修受講完了を介入の起点とし、介入前と実践期間経過後の介護者及び被介護者のデータを収集。
- ・収集したデータを九州大学で解析。

○ 対象

介護者：福岡市内の高齢者施設に勤務するケアスタッフ 150 人
被介護者：介護者が勤務する施設の入所者 260 人

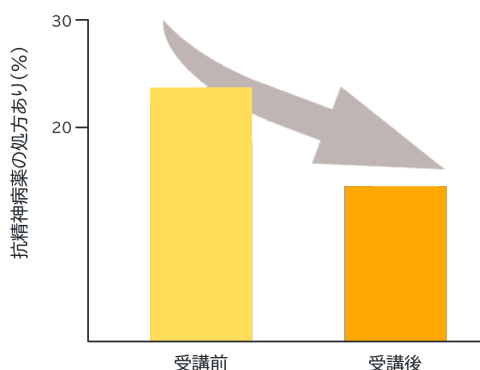
○ 調査期間

2025 年7月～2026 年9月

○ 結果



<施設でのユマニチュード実践の様子>



抗精神病薬を処方されていた人の割合が減少

24.7% ▶ 15.8%

- ・抗精神病薬を処方されていた被介護者の36%が処方中止。
- ・被介護者のBPSD(暴言や暴力、妄想など認知症の行動心理症状)、介護者のストレスや疲労度に変化は見られない。ユマニチュードの実践により、被介護者の不安やケアの拒否が軽減し、抗精神病薬の服用が減少した可能性が考えられる。

※抗精神病薬は認知症のBPSDに対してしばしば使用される。

Study2. ユマニチュードと口腔ケアの併用による誤嚥性肺炎入院発生率の検証

○ 目的

口腔ケアは、口腔内の清潔を保ち口腔機能の低下や誤嚥性肺炎の予防を目的に実施するケアだが、本人の拒否感が強く困難なケアの一つである。そこで、相手との信頼関係を築くコミュニケーション技法であるユマニチュードを活用することで、口腔ケアの効果が向上するか検証するもの。

※誤嚥性肺炎：食べ物や唾液などを誤って気管に取り込み、口腔内の細菌などによって生じる肺炎。
加齢や認知症、脳血管障害などにより嚥下機能が低下した高齢者で起こりやすい。

○ 調査概要

- ・福岡市内の高齢者施設から誤嚥性肺炎の入院件数を収集。
- ・2024年～2025 年上期にユマニチュード研修を受講したことのあるスタッフがいた施設を導入群とし、2023 年下期と 2025 年下期の誤嚥性肺炎入院件数を導入群・非導入群それぞれで比較。

○ 対象

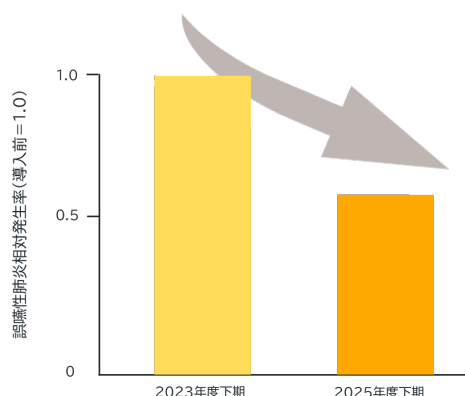
導入群：2024年～2025 年上期にユマニチュード研修を受講したスタッフがいた5施設

非導入群：上記以外の 11 施設



<口腔ケアの様子>

○ 結果



ユマニチュード研修を受講したスタッフがいた施設では
誤嚥性肺炎入院発生率が

44 %減少

- ・導入群では誤嚥性肺炎入院発生率が 44%低下した一方、非導入群では 37%上昇。
- ・ユマニチュードの実践により口腔ケアの質の向上が図られることで、誤嚥性肺炎の防止に寄与する可能性が考えられる。



誤嚥性肺炎予防効果が
福岡市全体に展開した場合の
社会保障費抑制効果

6.4
億円

(九州経済調査協会推計)

【問い合わせ先】

福祉局ユマニチュード推進部ユマニチュード推進課 古藤
TEL 092-707-3188 FAX 092-733-5587

福岡100
何歳でも
チャレンジできる
未来のまちへ

